

2021.06.01

InterRisk Thailand Flood Report <2021 No.02>

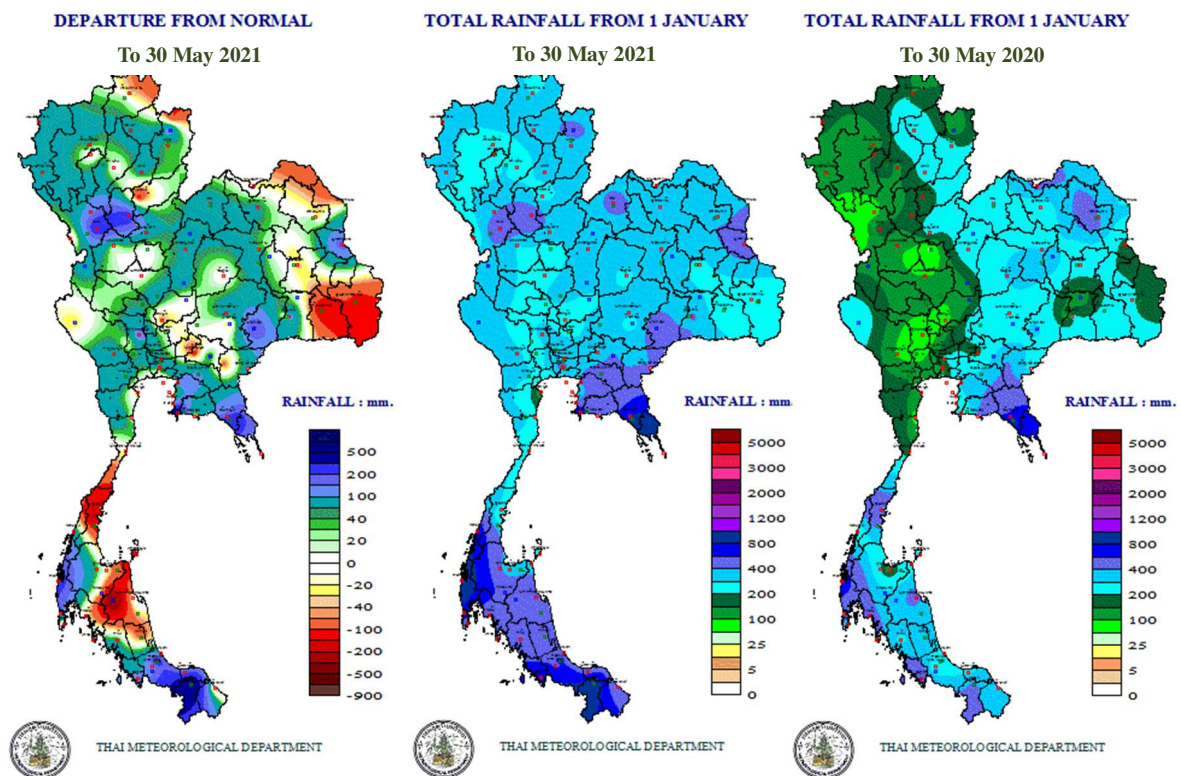
タイの渇水・洪水情報

概要

- ✓ 今年の1月～5月までの降雨量は昨年より多く、渇水は解消されました。
- ✓ 6月前半は多雨、後半は少雨が予測されています。
- ✓ チャオプラヤ川上流域の主要ダムおよびチャオプラヤ川の水位は、依然、低いレベルが継続しています。

降雨量

- ✓ 下図はそれぞれ、(左) 2021年1月1日～5月30日における累積降雨量の平年(直近30年の平均降雨量)との差、(中央) 2021年1月1日～5月30日の累積降雨量、(右) 2020年1月1日～5月30日の累積降雨量を示しています。
- ✓ 左の図(平年との差)より、タイ北部、北東部、南部の一部を除き、今年の累積降雨量は平年を上回っています。2020年の同時期は、タイ全土で平年を下回っていました。
- ✓ 中央と右の図(今年と昨年の1月1日～5月30日の累積降雨量)を比較すると、特にタイ北部から西部にかけて昨年を上回る降雨があったことが分かります。



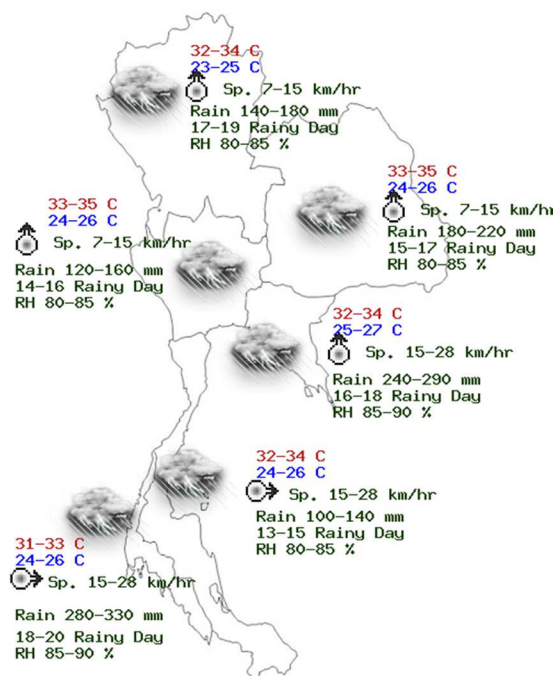
水管理計画

- ✓ 王立灌漑局（Royal Irrigation Department）は、2020年11月1日から2021年4月30日までの渇水期の水利計画が終了したことを明らかにしました。同期間の水の利用量は、想定の88%にあたる167億1700万立方メートルでした。
- ✓ 一方、5月中旬から雨季に入り、主に洪水への対応に関する水管理計画が発表されました。同計画には、洪水リスクが高い地域の特定制、洪水に対応するための人員・資機材の準備、ダム・排水設備の点検等が含まれます。
- ✓ 国家水資源局（Office of the National Water Resources）によれば、今年の雨季の水管理における主要項目は以下の通りです。
 1. 洪水・渇水リスクが高い地域の特定制
 2. 平地における鉄砲水、内水氾濫の防止
 3. 大規模、中規模ダムの貯水管理計画見直し、改善
 4. 水位観測所、排水ポイントの改修
 5. 排水障害のチェック、除去
 6. 河川、運河の浚渫（しゅんせつ）
 7. 洪水リスクが高い地域の洪水対応手順確認、資機材の準備
 8. 水管理、灌漑システムの強化
 9. 洪水に対する国民意識向上
 10. 水管理計画の見直し、調整

降雨量の予測

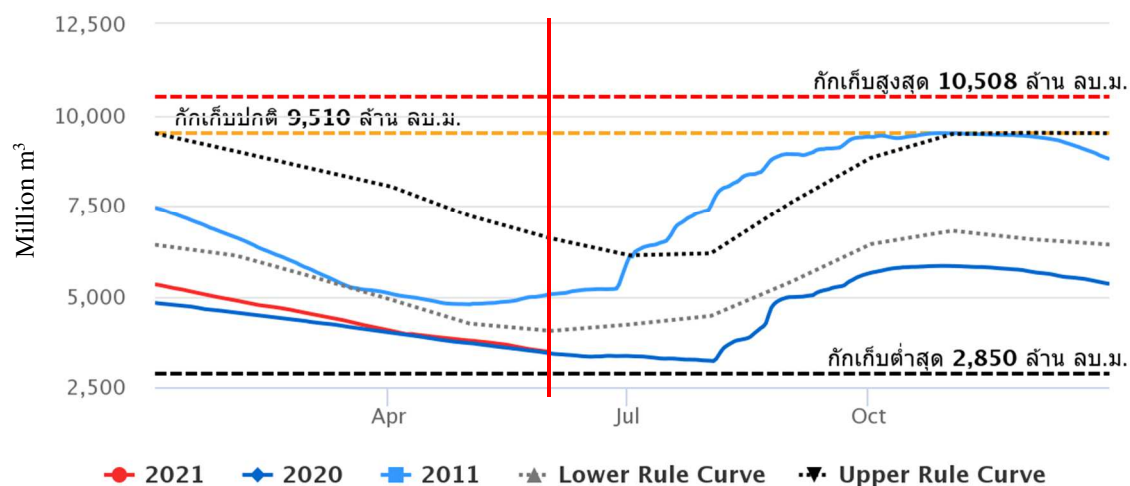
- ✓ タイ気象局によれば、6月前半は強い南西モンスーン※1とモンスーントラフ※2の影響で、全国的に降雨量が多くなります。
- ✓ 6月後半はモンスーンの勢力が弱まり、モンスーントラフが中国方面に移動するため、降雨量は少なくなります。
- ✓ 6月の予想降雨量は、北東部が平年より5%少ないことを除けば、全国的に平年より5%程度多くなる見込みです。各地域の降雨量と降雨日数の予測を右図に示します。

- ※1：モンスーン＝季節風（季節によって吹く方向が変化する風）。東南アジアでは4月～10月頃にかけて南西モンスーン、10月～3月頃にかけて北東モンスーンが発生する。タイは南西モンスーンの時期にインド洋から湿った空気が運ばれるため、雨が多くなる（雨季）。
- ※2：モンスーントラフは南北に移動する熱帯収束帯。熱帯収束帯では積乱雲が発達しやすく雨が多い。

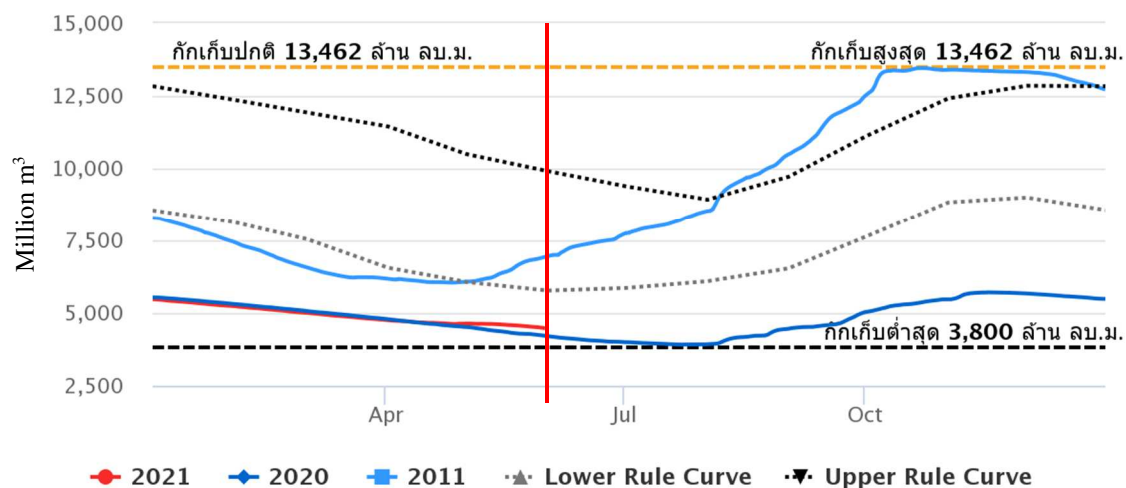


ダム貯水量（Sirikit ダム、Bhumibol ダム）

貯水量：Sirikit ダム（貯水率 37%：2021 年 5 月 31 日時点）



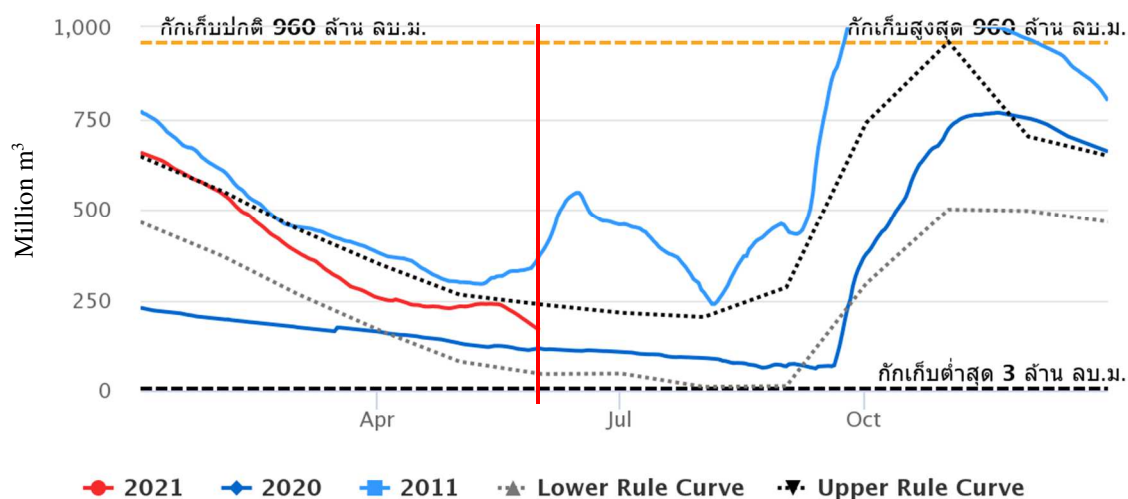
貯水量：Bhumibol ダム（貯水率 33%：2021 年 5 月 31 日時点）



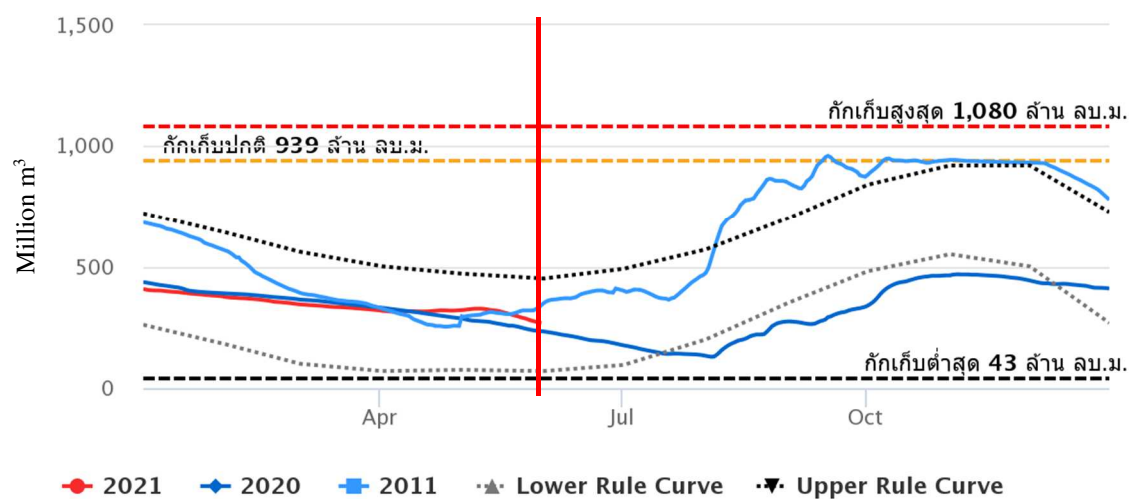
Sirikit ダム、Bhumibol ダムの貯水量は渇水期が終了した後も漸減し、昨年とほぼ同じレベルで推移しています。今後、タイ北部の降雨量増加により、両ダムの貯水量も増加することが予測されています。現在の貯水量は大規模な洪水が発生した 2011 年よりはるかに少ない状況です。

ダム貯水量 (Pasak ダム、Kwaenoi ダム)

貯水量 : Pasak ダム (貯水率 17% : 2021 年 5 月 31 日時点)



貯水量 : Kwaenoi ダム (貯水率 28% : 2021 年 5 月 31 日時点)



両ダムとも貯水量は漸減しており、昨年は上回るものの、特に Pasak ダムの貯水量は危機的なレベルです。今後、降雨量の増加に伴い、貯水量の増加が期待されます。

チャオプラヤ水系の河川水位（チャオプラヤダム上流：2021年5月24日時点）

チャオプラヤ川上流の水位は3月末から若干増加していますが、主要河川（Ping 川、Wang 川、Yom 川、Nan 川）の水位は依然低い状態です。いくつかの水位観測所では、堤防天端から水面まで 8m 程度の余裕があります。

Water Situation in the Chao Phraya River
24th May 2021

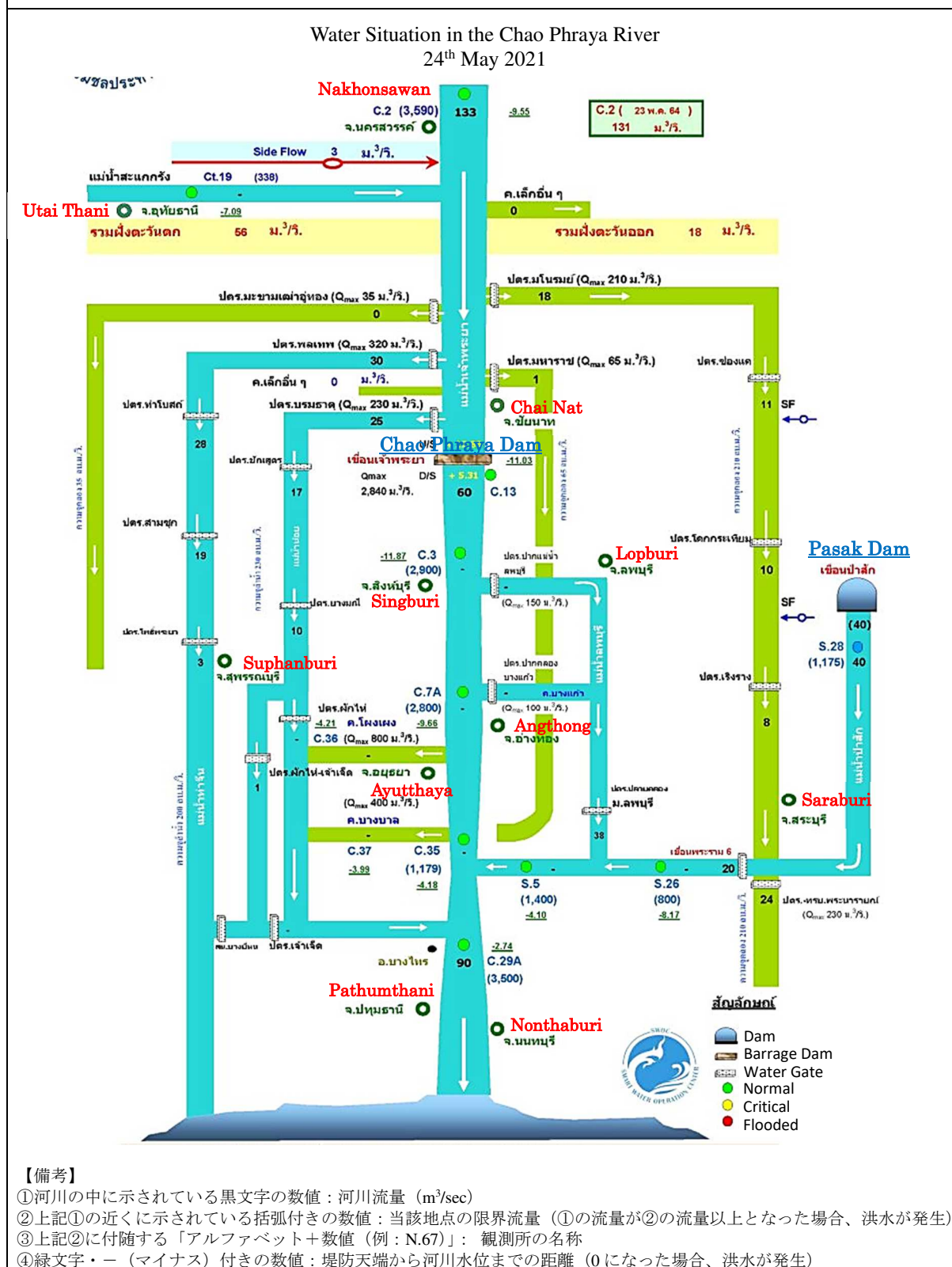


【備考】

- ①河川の中に示されている黒文字の数値：河川流量（m³/sec）
- ②上記①の近くに示されている括弧付きの数値：当該地点の限界流量（①の流量が②の流量以上となった場合、洪水が発生）
- ③上記②に付随する「アルファベット+数値（例：N.67）」：観測所の名称
- ④緑文字・－（マイナス）付きの数値：堤防天端から河川水位までの距離（0 になった場合、洪水が発生）

チャオプラヤ水系の河川水位（チャオプラヤダム下流：2021年5月24日時点）

チャオプラヤ川下流の水位は3月末から減少しています。全ての観測点で” Normal（洪水危険なし）” の状態です。



参照

https://www.tmd.go.th/monthly_forecast.php

<http://www.arcims.tmd.go.th/dailydata/yearRain.php>

<http://www.thaiwater.net/water/dam/large>

http://water.rid.go.th/flood/plan_new/chaophaya/Chao_up.php?cal2=24052021

http://water.rid.go.th/flood/plan_new/chaophaya/Chao_low.php?cal2=24052021

<http://water.rid.go.th/flood/flood/daily.pdf>

https://www.khaosod.co.th/economics/news_6384124

<https://www.thairath.co.th/news/politic/2095910>

MS&AD インターリスク総研株式会社は、MS&AD インシュアランスグループに属する、リスクマネジメントに関する調査研究およびコンサルティングを行う専門会社です。タイ進出企業さま向けのコンサルティング・セミナー等についてのお問い合わせ・お申込み等はお近くの三井住友海上、あいおいニッセイ同和損保の各社営業担当までお気軽にお寄せ下さい。

お問い合わせ先

MS&AD インターリスク総研（株） 総合企画部 国際業務グループ

TEL.03-5296-8920

<https://www.irric.co.jp/>

インターリスクアジアタイランドは、タイに設立された MS&AD インシュアランスグループに属するリスクマネジメント会社であり、お客様の工場・倉庫等における火災リスク調査や洪水リスク評価、ならびに交通リスク、サイバーリスク等に関する各種リスクコンサルティングサービスを提供しております。お問い合わせ・お申し込み等は、下記の弊社お問い合わせ先までお気軽にお寄せ下さい。

お問い合わせ先

InterRisk Asia(Thailand) Co., Ltd.

175 Sathorn City Tower, South Sathorn Road, Thungmahamek, Sathorn, Bangkok 10120, Thailand

TEL: +66-(0)-2679-5276

FAX: +66-(0)-2679-5278

<https://www.interriskthai.co.th/>

本誌は、マスコミ報道など公開されている情報に基づいて作成しております。
また、本誌は、読者の方々に対して企業の CSR 活動等に役立てていただくことを目的としたものであり、事案そのものに対する批評その他を意図しているものではありません。

不許複製／Copyright MS&AD インターリスク総研株式会社 2021